

平成 28 年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①平成 28 年度までの教育課程から平成 29 年度以降の新学科が併行する期間の教育課程への改編と移行をスムーズに行う。 ②国際科・理数科を引き継いで普通科において外国語や理数教育を重視した教育を行い、生徒の一層の学力向上を図る。 ③外国につながる生徒の支援体制を整備する。	①生徒主体の授業の工夫及び授業内容の充実を図る。	①すべての教員が 1 回はアクティブ・ラーニング型の授業、または、ICT を活用した授業に取り組むことを目指す。	①生徒による授業評価の項目 4 における「4 かなり当てはまる」の回答率 5 割以上となったか。	①各学科とも ICT の利活用を含めて、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業を行った。しかし、生徒による授業評価の結果は、保健体育、芸術 2 教科以外の座学が中心の科目において目標が達成できなかった。ただし、評価 4、3 を合わせると 1 教科を除いて 75% 以上を達成している。	①全ての教科において、生徒主体の授業ができるように、教科担当者同士の情報共有を行うとともに、他教科とも積極的に情報交換・授業研究を行うことで授業の質を高めていく。	①アクティブ・ラーニングや ICT の利活用について、具体的にどのような授業を行ってきたのか見えてこない。 ①国語に限らず、日頃の学習活動の中で、言語活動の充実を図る取組が必要である。	①アクティブ・ラーニングの視点に立った授業や ICT の利活用法などが課題である。生徒主体の授業づくりに係る研究授業に、学科・教員が参加することができたが、恒常的な情報共有・情報交換を行っていく必要がある。	①授業研究の中でアクティブ・ラーニングの視点に立った授業や ICT の利活用法などを協議し、より多くの教科で実践していく。また、全ての教科で言語科を超えて多くの教員が参加することができたが、恒常的な情報共有・情報交換を行っていく必要がある。
2 生徒指導・支援	①部活動加入者の向上と生徒会活動の活性化を図り、豊かな人間性と社会性の涵養を図る。 ②生徒一人ひとりにきめ細やかな支援や指導をし、心身の健全な育成を目指す。	①部活動や生徒会活動を通じて個々の生徒がその興味関心を深め、より主体的に豊かな学校生活を送るよう支援する。 ②来年度の普通科の実施に向けて、多様な生徒によりきめ細かく対応するために、スクールカウンセラー（以下 SC）、スクールソーシャルワーカー（以下 SSW）を有効活用する。	①部活動加入率の向上と生徒会活動における生徒の主体的な取組みを促す。 ②SC や SSW への有効活用をするためのシステム作りを構築する。ケース会議から専門機関への連携をよりスムーズに、わかりやすくする。	①委員会活動や部活動など生徒会活動全般に、生徒が自主的・主体的に取り組むことができたか。 ②ケース会議の開催が、生徒の問題解消にどのように役立ったか、また専門機関との連携が不必要な場合を除き、どのように実施し、効果をあげたか。	①部活動・委員会活動・学科行事ともに生徒の主体的な取組みにより、運動部・文化部とも各種大会で上位入賞など多くの成果を挙げるとともに、学校行事、学科行事の成功につながった。 ②SC を活用し、教育相談を充実させることによって生活指導に役立った。また、SSW と連携し生徒支援を行った。	①部活動指導、行事運営など一部の教員に負担が偏る傾向があるため、今後は、組織的に取組んでいく。また、部活動においては、部活動間の連携、外部講師の活用、活動環境の充実をしていく。 ②ケース会議の開催と専門機関との連携をよりスムーズに行っていくことが課題である。職員に SSW の周知を行い、活用できるように組織づくりを工夫する。	①高校改編によってスポーツ科学科の生徒数になると部活動（運動部）の活動に制限が確保してほしい。	①部活動、委員会活動、学科行事とも、生徒の主体的な取組みができており、多くの成果を挙げている。部活動指導、学校・学科行事の運営については一部の教員に過度な負担がかからないようにすることが課題である。 ②支援の必要な生徒について、SC の利用や担任との面談を通してきめ細やかな支援を行うことができた。 ②生徒支援について、職員の情報共有、理解の共有を一層図っていく必要がある。	①部活動においては、SI グループを中心に組織的な指導を行うよう調整を図っていく。学校・学科行事については、年間行事計画の見直しと、無理のない運営計画を検討していく。 ②支援の必要な生徒と SC とのつなぎ方や、SSW の活用方法の周知など、支援教育に係る研修を設定する。
3 進路指導・支援	①各学科の特色ある教育を基に、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、国公立・難関私立大学への進学を目指す。 ②専門学科においては専門課程にふさわしいキャリア教育を支援していく。	①生徒個々の進路希望の実現をめざし、進学指導の充実を図る。	①生徒の希望に基づき、模擬試験等のデータ等を用い、現役での進路実現をめざす。	①全学科において、センター・一般入試における受験決定率を 30% 以上に引き上げられたか。	①進路指導グループを中心に進学相談、模試結果の分析と指導、面接・小論文指導、補習等を行い、生徒の進路実現に成果を挙げた。一方、スポーツ科学科は 82.5% が推薦等で進学が決定しているため、全学科での 30% 目標は達成できなかった。	①1 年次は学科混合クラスのため、クラス単位の進路指導が難しい場面があった。2 年次は学科ごとに指導できるが、進路が多岐に渡るため、進路指導グループと連携を密に取る必要があった。進路グループを中心に、組織的な進路指導に取り組む。	①大学入試で生徒が早く決めたいという気持ちで AO 受験を希望するが、それを一般受験に向けて最後まで勉強させて頑張らせる取組は良い。 ②キャリア教育を通して、生徒が自分の将来を考え、その進路実現に適した教育課程の編成をしていくことが望ましい。	①模試の分析と有効活用、補習講座の充実、面談指導、小論文指導等とともに、生徒に受験へのモチベーションを維持させ、進路選択の幅を増やす指導を継続して行い、進路実績を上げることができた。複数の学科の生徒が在籍する中で、進路指導に係る教員が、多岐に渡る進路情報の共有を図る難しさがある。	①進路指導グループを中心として、入学時より計画的なキャリア教育を行い、模擬試験等の定点観測を活用し、学科・教科、年次と連携を取りながら、進路に向けた適切な学習指導及び進路相談等の一層の充実を図る。

4	地域等との協働	<p>①地域の小・中学校・大学等の教育施設と一層の連携を図る。</p> <p>②地域との協働を推進し、地域に愛され、信頼される学校づくりを行う。</p>	<p>①ふれあいコンサートを実施し、この活動を通して相模原中央支援学校や、市内特別支援級の生徒とのふれあいを体験させる。</p>	<p>①福祉委員会の生徒が吹奏楽部、合唱部、YAEI アクト部等に協力を得て自主的にコンサートを企画、運営し、出演する生徒達や客席で参加する生徒も、地域への貢献とふれあいの体験を共有できるようにする。</p>	<p>①地域のコンサート等へ生徒が自主的な活動で参加をすることで、地域の一員としての自覚が芽生えたか。</p>	<p>①地域のコンサート以外にも、国際科は姉妹校のオーストラリアの生徒たちと弥栄小学校訪問、理数科の1年次生は地域の小・中学生対象の「理数教室」での講師を務めるなど、各学科・専攻、部活動において、非常に多くの機会に地域との交流・貢献を行うことができた。</p>	<p>①国際科、理数科が学科改編に伴い、普通科になるため、学科で行っていた地域との交流・協力等の行事の継続方法が課題である。学科改編後も交流・協力等を継続するための方法等を検討していく。</p>	<p>①理数科1年次の行事の「わくどき理数教室」が今年で終わるのは寂しい。部活等で継続していくことはできないか。地域としては期待している。</p> <p>①国際科の生徒が小学校での英語教室などできないか。また、普通科になっても、それができれば学校の魅力となるのではないか。</p> <p>②地域の公民館、博物館、JAXA 等との連携・交流・協力をしていることを、積極的に発信すべきである。</p>	<p>①各学科、部活動において積極的に地域との連携を行っている。特に、本校生徒がそれぞれの専門学科の特徴を生かして地域の小・中学生に講師役となって指導したり、生徒が日頃の成果を発表したりする機会が多いため、地域の方々も本校の教育活動に期待をしている。学科改編で学科行事をこれまで通り実施することが難しい状況である。</p>	<p>①学科改編にかかる学科行事の見直しを行っているところではあるが、継続できるものはできるだけ継続していく。また、形を変えて実現できるものがあるかどうか、今後検討していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①緊急時に対応できる防災教育・安全教育を学校全体で推進する。</p> <p>②職員の資質の向上に努め、事故・不祥事防止に繋げる。</p>	<p>①職員の共通理解のもと、生徒の防災意識の向上を図る。</p>	<p>①地域と連携した訓練への参加や校内防災訓練・講話に加え、LHR等においても自主作成資料等で防災活動を行う。</p>	<p>①地域の防災訓練への参加状況や校内の防災訓練の避難時間等の短縮等、生徒の防災意識の向上が見られたか。</p>	<p>①本校職員が地域の小学校の防災引き取り訓練を参観した。本校で行っている防災訓練の改善や職員全員でのDIGにより職員の防災意識を高めることができた。</p>	<p>①地域の自治会等の防災訓練への参加ができなかった。今後、参加形態も含め検討していく。</p>	<p>①防災訓練について、学校は蛍光灯が多いので、けがをしないような訓練が必要である。また、起震車体験などを実施したらどうか。</p> <p>①地震の時、何に気をつけるべきか、自分の安全を自分で守るよう生徒に考えさせるために、防災訓練を生徒に企画させたらどうか。</p>	<p>①防災訓練、震災講話等を通じて、生徒に非常時の行動について考えさせる指導を行った。県内の広範囲から通学している生徒が多いので、通学時の安全確保が課題である。また、単位制専門学科で選択授業が多いため、非常時に学級担任が生徒の掌握に時間がかかることが予想される。</p>	<p>①防災意識を高めるよう、生徒による防災マップづくりや、授業時間中に災害が起きた場合の訓練などにより防災教育を推進していく。また、防災マニュアルに則り、職員全員で生徒の安全確保に速やかに対応できる体制を作っていく。</p>